

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成19年10月25日(2007.10.25)

【公開番号】特開2005-125084(P2005-125084A)

【公開日】平成17年5月19日(2005.5.19)

【年通号数】公開・登録公報2005-019

【出願番号】特願2004-261122(P2004-261122)

【国際特許分類】

A 6 1 B 6/03 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 6/03 3 7 0 B

A 6 1 B 6/03 3 3 0 C

【手続補正書】

【提出日】平成19年9月6日(2007.9.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

X線発生手段と、被検体を透過したX線を二次元分布として検出する二次元検出器と、前記X線発生手段と前記二次元検出器が形成する撮像領域中において被検体を相対的に回転させる回転手段とを有する放射線撮像装置において、被検体が持つ固有の変動を検出する変動検出手段と、該変動検出手段から変動の周期pを計算する周期計算手段と、前記変動検出手段から前記周期pに対する静止期間の比率qを決定する静止比率決定手段と、前記周期p及び比率qを基に前記回転手段の1回転の回転時間tを計算する回転時間計算手段とを有することを特徴とする放射線撮像装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

上記目的を達成するための本発明に係る放射線撮像装置は、X線発生手段と、被検体を透過したX線を二次元分布として検出する二次元検出器と、前記X線発生手段と前記二次元検出器が形成する撮像領域中において被検体を相対的に回転させる回転手段とを有する放射線撮像装置において、被検体が持つ固有の変動を検出する変動検出手段と、該変動検出手段から変動の周期pを計算する周期計算手段と、前記変動検出手段から前記周期pに対する静止期間の比率qを決定する静止比率決定手段と、前記周期p及び比率qを基に前記回転手段の1回転の回転時間tを計算する回転時間計算手段とを有することを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

回転テーブル13の1回転当たり25000パルスを発生させるエンコーダを使用する場

合に、1回転に対して1000ビューの投影データを収集するとすれば、エンコーダ信号の25パルス毎に二次元検出器12からデータが収集されることになる。制御手段23ではこのエンコードパルスを計数して25パルス毎に積分信号を発生させて、二次元検出器12に到達したX線量を計数する。